

第32回ITER理事会の開催結果について



文部科学省 研究開発局
研究開発戦略官(核融合・原子力国際協力担当)付



MEXT

MINISTRY OF EDUCATION,
CULTURE, SPORTS,
SCIENCE AND TECHNOLOGY-JAPAN

第32回ITER理事会について

日程・場所

- ・ 令和5年6月21日（水）～22日（木）
- ・ ITER機構本部（フランス サン・ポール・レ・デュランス市（カダラッシュ））

出席者

議長：ガリバ 欧州委員会エネルギー総局副総局長

日本：増子 文部科学審議官 他

欧州：パネック 欧州委員会エネルギー総局ITER局長 他

米国：ベルハ エネルギー省科学局長 他

ロシア：コマロフ ロシア国営原子力企業第一副長官 他

中国：チャン 科学技術部副部長 他

韓国：イ 科学技術情報通信部研究開発政策室長 他

インド：グローバー 原子力委員会委員 他

ITER機構：バラバスキ機構長、鎌田副機構長 他



議題

- (1) 開会挨拶（議長、各極首席政府代表、機構長）
- (2) ITER計画進捗報告
- (3) その他

第32回ITER理事会の結果概要（令和5年6月22日～23日）

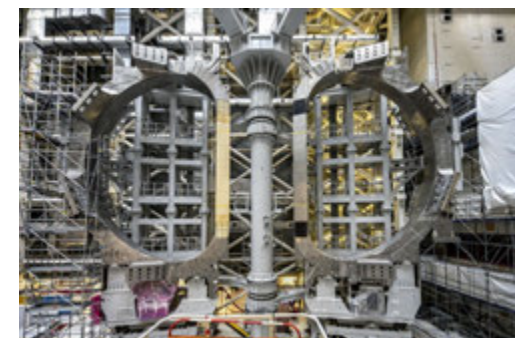
（1）ITER計画進捗報告

（建設活動の進捗）

- 各極及びイーターサイトで建設活動が継続し、「世界初」の機器の製作・納入が進捗。
例. 2023年2月に、日本が調達するトロイダル磁場(TF)コイルの最終号機（予備機を除く）が完成。
検査終了後、現在は工場からイーター機構に向けて輸送中。

（ベースライン更新）

- 新型コロナウイルス感染症の影響緩和や、不具合が生じている真空容器・熱遮へい板の修理戦略、将来のリスク低減のための戦略などを踏まえ、ベースライン（計画の日程、コストを定める基本文書）の更新作業が進められており、2024年中の承認を目指す。
- ITER機構は、核融合運転を最速で達成するような工程の組み換え等を行い、「増強ファーストプラズマ」の導入や、プラズマに対向する第一壁の材料の変更（ベリリウム→タングステン）を提案。今後、各極による評価が行われる。



修理の準備が進む真空容器セクター

（2）その他

- 本年3月に着任した鎌田副機構長（科学技術担当）、ルオ副機構長（管理担当）に続き、オランダ氏を建設プロジェクトリーダーに、ベクレ氏を首席科学官に任命し、新執行部の体制が固まった。
- 各極は、核融合エネルギー実現においてITERが持つ価値を再確認するとともに、商業核融合セクターに対して、ITERが多くの知見（安全規制、技術的教訓など）を提供できることを確認した。